

きょうの健康

Eテレ
 毎週月～木 後8:30～8:45
 再 翌週月～木 後1:35～1:50

出演 ● 永井伸一キャスター、
 白鳥哲也キャスター、
 岩田まこ都キャスター^{ほか}

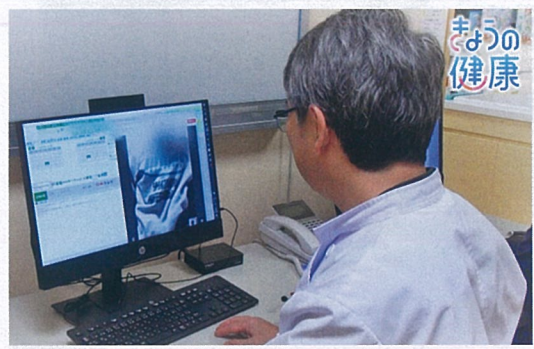
※週によって出演者が異なります。

メディカルジャーナル これで安心! オンライン診療

解説: 黒木春郎さん(日本遠隔医療学会オンライン診療分科会 会長)

2020年
 12月17日放送より

新型コロナウイルス感染の収束が見えない今、「新しい医療の形」として注目されている「オンライン診療」。この診察の利用方法や注意点などについて、紹介します。



診察では、医師と患者がインターネットを通じて“テレビ電話”のように画面越しに対話する。

ニーズが高まる
 新しい医療のスタイル

最近、ニュースなどでよく耳にする「オンライン診療」。これは、インターネットを通じて医師の診察が受けられる新しい医療の仕組みです。

2015年に、国は全国的な利用を認め、その後、段階的に制度が整ってきました。そして去年4月、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、初診も可能になるなど条件が緩和されて大きく普及したのです。しかし、利用が増える中で、「やり方がわからない」など、疑問を持つ人も少なくありません。そこで今回は「オンライン診療」のやり方について解説します。



オンライン診療とは?

オンライン診療とは、スマートフォンやパソコンなどのビデオ通話機能を利用し、インターネット上で医師に診察してもらう方法です。それに対し、ふだん私たちが病院などの医療機関に行って、医師と対面しながら診察してもらう方法を「対面診療」と呼んでいます。

オンライン診療は、患者が医療機関にまで足を運ばなくても、インターネット環境がある場所であれば、自宅だけでなく外出先からでも利用できます。ただし、症状によっては“向き”“不向き”があるため、注意が必要となります。

「オンライン」と「対面」、両方の特性をよく理解して、使い分けることが大切です。

オンライン診療に向く時

安定し 経過観察中の病気
 高血圧 糖尿病 ぜんそく 花粉症 骨粗しょう症

軽いかぜの症状

自分で判断が難しい

すでに治療が行われている慢性の病気や軽いかぜなどの診察のほか、医療機関に行くべきかどうかの相談も、オンライン診療に向く。

実際に触っての診察や患部への処置が必要な場合、突然の痛みの発生や症状が悪化した場合などは、オンライン診療に向かない。

オンライン診療に向かない時

触診 聴診が必要

けががある

腹痛 胸痛など急性の症状

慢性疾患が悪化した



基本的な受診の流れ

① アプリやWEBサイトの準備

専用のアプリを、スマートフォンやパソコンにダウンロードする。運営会社によっては、WEBサイトで行えるところもある。

② 情報登録

名前、性別、生年月日、住所の基本情報、電話番号などの連絡先、保険証や各種受給券、クレジットカードなどの支払いに関わる情報を登録する。

③ 検索・予約

受診したい医療機関を検索して、予約をする。

⑥ 支払い

診察後、クレジットカードなどでオンライン上から支払いを行う。

⑤ 診察

予約した時間になったら、「診察開始」のボタンをクリックして診察を受ける。

④ 問診表

受診前に、アプリやWEBサイトを通じて問診票に入力する。

Q 薬の入手方法は？

A 処方箋を自宅などに郵送してもらい、それを持って薬局に行き、薬を受け取ります。ほかに、診療後、オンラインで薬局にアクセスして服薬指導を受け、薬を送ってもらう方法もあります。

Q 費用はいくらかかる？

A 対面診療と同じくらいのケースが多いです。具体的な金額は医療機関によって異なるため、直接問い合わせるなどの確認をおすすめします。



オンライン診療に適した環境と受診時のコツ

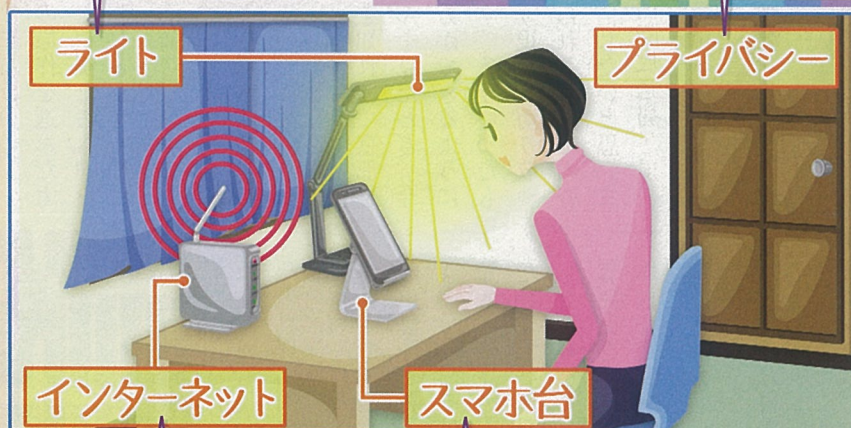
オンライン診療を上手に利用するためには、**受診の際の環境を整える**ことが大切になります。右図のように、安定したインターネット環境やプライバシーが守られる場所などを用意して、診察を受けましょう。

また、対面診療と比べると、表情や動作が医師に伝わりにくい面があります。そこで、話し方のポイントとして、**相づちとリアクションは大きめに**して、はっきりと話すように意識することも大切です。また、話すことを事前に用意しておくことで会話がスムーズに進みます。簡単なメモでかまわないので準備しておくことをおすすめします。

顔色や表情、患部などが医師に見えやすいように、ライトを当てるなどして明るくする。

個人情報のやり取りが漏れないように、自宅の個室や会社の会議室など、プライバシーが守られる場所で行う。

診察を受ける時に大事なもの



映像が途中で途切れたりしないように、通信環境が整った部屋で診察を受ける。

画面がグラグラすると表情の変化などが確認しづらくなるため、カメラを固定して受診を。スマートフォンの場合はスマホ台があると便利。